

国語 第3学年 つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書く こう

検討会の想定問答

指摘 1: この教材で身に付ける力は何か。

返し: 調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。B(1)アに関わる学習として、工夫の材料分類表と報告文で言葉の扱いを確かめる。

指摘 2: 学習できたと判断する根拠は何か。

返し: 評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

指摘 3: 活動だけで終わらせないために何を残すか。

返し: 工夫の材料分類表と報告文を残す。完成後の見た目だけでなく、どの言葉を選んだか、その理由を本人の説明と照合する。

指摘 4: つまづきにはどう対応するか。

返し: 集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。その場合は、資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。

指摘 5: 本時の問いはどのように働くか。

返し: 「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」に一度答えてから活動に入り、確かめた後に答えを比べる。教師の予定した文と一致するかではなく、言葉と理由の対応で判断する。

指摘 6: 友達と違う考えはどう扱うか。

返し: 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。友達と同じ表現に直すことを目的にせず、伝わったことと確かめる必要があることを区別する。

指摘 7: 態度の評価は参加の様子で決めるのか。

返し: 参加回数や声の大きさだけで決めない。学習の見通しをもち、困った箇所を確かめて方法を試した記録から、粘り強さと自分の学習の調整を捉える。

指摘 8: 端末や特別な道具がなくても進められるか。

返し: 工夫の材料分類表と報告文は紙・板書・口述の記録で扱える。端末がある場合は見直し前後を保存して比べる。道具の操作の上手さを国語の評価と混同しない。

指摘 9: 配当時間を変更する時は何を確かめるか。

返し: 全10時間は光村図書の公式年間指導計画に基づく。本案の各時の配分は授業案であり、学校の年間計画に合わせて組み替える際も、目標と評価を確認する活動を残す。

指摘 10: 教科書本文を配布物に載せていない理由は何か。

返し: 児童と教師は使用中の教科書を手元で参照する。本案には独自の問い、活動の手順、記録の観点を示し、本文や台詞、挿絵、教科書の問題文を複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

